

健康の社会的決定因子に関するWMA声明

2011年10月、ウルグアイ、モンテビデオにおける第62回WMA総会で採択

健康の社会的決定因子には、人々の誕生・成長・生活・就労・加齢という条件と、そうした条件への社会的影響がある。健康の社会的決定因子は、良好な健康状態を含む生活の質（quality of life）と、障害のない状態での平均寿命の長さの両方に大きな影響を及ぼす。医療では事態の収拾と早期の健康障害による損傷の回復に尽力するが、疾病の発生率、特に健康格差の度合いは、こうした社会、文化、環境、経済およびその他の要因に大きく起因する。

歴史的にみると、医師やその他の医療従事者の主な役割は病気の治療であり、このことは社会全般で重要かつ高く評価されてきた。また程度は低くなるが、医療従事者は、喫煙、肥満、慢性疾患患者の飲酒といった、個々人がさらされる病気の原因を扱ってきた。これら馴染みのある生活習慣は、病気の「近似」の原因と考えることができる。

社会的決定因子への取り組みは、近似の原因への焦点をはるかに越えて、「原因の原因」を考慮するところまでに及ぶ。例えば、喫煙、肥満、飲酒、非活動的な生活様式などは、すべて疾患原因である。社会的決定因子への取り組みは、こうした原因の原因を論じ、とりわけそれらの健康の社会的格差への影響を論じる。各個人の行動に焦点をあてるだけでなく、早期の健康障害へとつながる社会的・経済的状况を一生の過程、つまり幼児の発達、教育、就労、生活における環境条件を通して対処し、そうした生活・就労条件へとつながる構造的な原因に取り組むことに努める。多くの社会では、不健康な行動は社会的階層に付随する。つまり、社会経済的に低い階層であればあるほど、喫煙の度合いが増え、食生活が悪く、運動不足であることが多い。こうした原因の社会的分布の主な理由は教育レベルにあるが、他にも理由はある。他に原因の原因として具体的な例としては価格と入手しやすさがあり、これらは飲酒を誘発する主な原因となっている。また、課税、パッケージの表示、広告の禁止、公共の場での喫煙などは、タバコ消費に対し明白な効果を持っていた。原因の原因に取り組むこうした例で、医療従事者の声は最も重要とされてきた。

健康の社会的決定因子に関する活動を通じて健康と寿命の不平等に取り組もうという動きは、世界的に伸展している。この動きは、世界保健機構（WHO）の他、いくつかの国の政府、市民社会団体、そして研究者の間にも広がっている。様々な方面で解決法を探し求め、学んだ知識を共有している。医師は、こうした議論に参加し十分に情報を吸収する必要がある。医療活動の範囲で直接に、そして他分野との共同作業により間接に貢献できることは多い。医療従事者は、健康に重要な影響を持つ社会的条件に対する活動を促進することができる。

WMAは、新たに明らかになるエビデンスが示すことや効果的な利用法を異なる状況に応じて理解できるよう、医師や他の医療従事者および各国医師会を支援することによって、こうした社会的決定因子に取り組む世界的な努力に大きく貢献することができる。我々は医師による自国内や国境を越えたロビー活動をより効果的なものとし、医療知識や技術の共有を確実なものとするためにも協力していくであろう。

WMAは、成功例のデータを集め、医師や他の医療従事者が新しい革新的な解決法を取り入れるための支援をしていくべきである。WMAは、各国医師会とともに会員の教育と情報伝達に協力してあたり、早期の健康障害の根本にある原因を最小限にするための適切な措置を講じるよう、各国政府に強くはたらきかけるべきである。例えば英国では、健康の社会的決定因子に関する活動を通じて健康格差を減らすことを中核とした公衆衛生白書を政府が発表し、いくつかの地方では行動計画を策定している。一般診療における活動分野を超えた協力が人々の生活の質を改善し、結果、健康格差を減少させたという良い例も複数ある。WMAは、会員から優れた実践事例を収集し、この分野における更なる取り組みを促進していくべきである。

□□